

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達支援スクールクローバー蛍池駅前教室			
○保護者評価実施期間	2025年1月15日		～	2025年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	49名	(回答者数)	37名
○従業者評価実施期間	2025年1月15日		～	2025年3月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育士、言語聴覚士、作業療法士など多職種が在籍しており、様々な角度から支援することができます。	療育終了後や支援会議などを通して児童の様子を職員間で情報共有するようにしており、職員全体が利用者の様子を把握できるようにしています。	様々な職種の意見を取り入れ、お子様ひとりに丁寧にアプローチをしています。
2	幼稚園、保育園、療育施設などで働いてきた経験のある職員が多いです。	経験者が多いことで、いろいろな視点でお子様を見ることができます。	それぞれの持っている専門知識や経験を生かして、お子様に対しての関わり、意見交換や情報交換をすることでお子様に違う視点で関わるすることができます。
3	遊びの中でお子様の興味や関心を大切にしながら療育を行うことで、安心して過ごせる環境づくりにつなげています。安心してできる環境の中で大人と信頼関係を築くことで、自発的な行動や表現の増加につながっています。	子供の気持ちや体調に応じ、柔軟に支援内容を変更したり、遊びや活動をその子の興味に合わせてアレンジし、言葉や運動の発達につなげています。	今後は、児童一人ひとりの興味や関心に合った関わりや支援の内容をさらに探求し、より深く理解できるように努めています。そのうえで、安心できる環境の中で新しい遊びや活動に挑戦できる機会を設け、興味の幅を広げていきたいと考えています。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	部屋のスペースが狭い為、小集団療育などは2～4名と人数が限られてしまいます。	部屋が狭く、物理的に部屋を増やすことが難しい。	・2～4名と人数が少ない為。一人一人丁寧に関わるすることができます。 ・パーテーションで仕切りを作ったり、一度に来所出来る児童の数を増やしたりと工夫しています。 ・少しスペースの確保が難しい点はあるが、怪我等ないように大人を配置し、安全に活動できるよう努めています。
2			
3			